

平成 23 年度第 10 回新宿区外部評価委員会会議要旨

<開催日>

平成 24 年 3 月 22 日（木）

<場所>

第 1 分庁舎 6 階研修室 A

<出席者>

外部評価委員（11 名）

名和田会長、岡本副会長、加藤委員（第 1 部会長）、入江委員、大塚委員、富井委員、中原委員、鍋島委員、芳賀委員、山村委員、渡辺委員

区長

事務局（5 名）

寺田総合政策部長、山崎行政管理課長、大竹主査、担当 2 名

<開会>

【会長】

第10回外部評価委員会を開催いたします。

本日は、現在のメンバーによる委員会の最終回です。区長にご出席いただいておりますが、議会の都合があるということで11時にご退席になります。

今年度は、通常の計画事業の外部評価に加えて、経常事業評価試行による手法等の検討と、外部評価のこれまでの活動の総括を議論してまいりました。

計画事業の外部評価については、第二次実行計画に評価を反映させるために、例年より早く、昨年8月に報告書をまとめております。また、経常事業評価の試行についても、意見をまとめて2月に報告をいたしました。外部評価の活動の5年間の総括については、本日報告書を区長に提出します。その後、資料として配付されている、計画事業の行政評価の反映について事務局から報告を受け、質疑・意見交換等をするという予定です。

それでは区長に報告書をお渡しいたします。

（報告書の提出）

【会長】

それでは、これから区長にご感想をいただいた後、自由に感想や意見を交わすということにしたいと思います。それでは区長からお願いします。

【区長】

皆さん、本当にありがとうございました。

この外部評価委員会は、新宿区で初めて、それも任期4年ということでスタートしました。

通常の審議会等の任期は2年程度という中、異例の4年という任期で始めていただき、また、非常に難しい仕事であったかと思います。そうした中でいわゆる外部評価というものを皆様方に作り上げていただきたいという思いで始めたところでございます。

途中で任期を延ばさせていただき、皆さんには約5年にわたる任期を本当に活発にご活動いただきましてありがとうございました。そしてまた、こういった報告書をまとめていただきまして、本当にありがとうございます。

私は区長に就任して、ちょうど今、10年目です。私自身、東京都や他区で仕事をしたことがあり、その中でやはり行政の仕事の文化を変えたいという思いを持っていました。

行政評価はそんなに古い歴史を持っているわけではありません。日本の文化には、評価というものが、なかなか根づきにくいところがあったのではないかと考えていました。

私が就任したときに、新宿区は内部評価制度についての取り組みが始まっていました。

しかしながら当時、内部評価というものについて、個々の職員が評価の文化というものを持っていたかといえ、そうではなく戸惑っていたという部分があったかと思います。

そのような状況において、行政評価に区民の目線で事業評価を行う外部評価制度を組み入れることによって、評価の客観性や透明性を高めていける、そういったことが大切であろうというふうに考えました。

そこで、平成19年9月に区長の附属機関という位置づけで新宿区外部評価委員会を設置して、皆様方にこの間活動していただいたところです。ですから、皆様方にはまさに外部評価そのものの制度設計も含めて、ゼロからのスタートということで審議を始めていただきました。内部評価結果報告書の確認、その内容を的確に理解を深めていくための事業課とのヒアリング、利用者の生の声を聞いて、現場の視察等も行っていて、個々の事業の評価はもとより、この外部評価制度というものの評価手法の確立に本当にご尽力いただいたと思っております。

本当にありがとうございます。

平成22年度には補助事業についてもご審議をお願いし、23年度は第二次実行計画にご意見を反映させるため、例年より早い時期から8月末までに、延べ24回の会議をやっていただきました。秋からは経常事業評価の試行も行っていました。

こうした活発なご議論の上にまとめていただいた報告書は、皆さんの熱い思いが伝わってきてまして本当にありがたいと思います。

外部評価の仕組みというのは、内部評価したものを外部評価することですが、この評価の過程で、事業課にとっては、施策や事業の目的、効果をもう一度自分たちで的確かつわかりやすく説明することが求められるわけです。また、そういう説明をすることは、自分たち自身の仕事を見直すことにつながってくると思います。

そうして自分たち自身の仕事を見直し、説明責任を満たしていけるということは、職員が「行政の力」をつけるということにもつながり、行政の仕事の文化を変えていく原動力になるのではないかと考えています。

私は、皆さんからいただいたご意見や、区民協議会であるとかいろいろな形でいただいたご

意見を十分参考にしながら、より行政の仕事が効果的かつ効率的で、時代に合った柔軟なものとして、そして区民の皆さんとの協働の視点を持ちながら、いきいきと暮らせるまちづくりにつながるように推進していきたいと思っています。

それともう一つ、経済環境が悪くなる中で、行政の財政環境が非常に悪くなっています。これはご存じのとおり、私たちの財政構造の仕組みが皆さんの税金から成り立っており、経済環境が悪くなると納税者である方々の所得が低下する。そうすると税額も低くなる。入るものは少なくなる中で、社会的弱者といわれるような生活保護を初めとした扶助費については大きく伸びてきます。入るものは少なくなり、出るものは多くなるというような財政構造を持っているものですから、私は経常事業評価を本格的に実施して、職員一丸となって、効果的、効率的な行財政運営に努めていかなければならないと考えております。

皆様、この5年という期間は1つの節目となるような期間であったと思います。そうした中で、職員も育てていただいたと思いますし、また、将来に向けて新たなものをつくり上げていけるような計画評価の文化というものの定着に、私自身も努めていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

【会長】

ありがとうございました。

では、部会を代表して各部会長にご感想をお願いしたいと思います。

【第1部会長】

第1部会の部会長をこの夏から担当させていただきましたが、はっきり申し上げますと、右も左もわからない状態の中で皆さんと一緒に数カ月やらせていただいたところです。

今の区長のお話を伺いまして、いろいろ感慨深いものがありました。

先ほど行政文化という言葉がございましたが、やはり行政が主導でやっていることを区民にわかりやすく伝え、難しい制度や事業の問題も、なるべく開かれた形で皆さんにご説明できないといけないということを日ごろ感じています。なかなかそれをやっていただけないケースも多く、そうした中で行政の文化を開いて、それから市民の目線できちんと検討して、一緒になって町をつくっていくというやり方が非常に必要だと思っています。そのため、こういう新宿区の試みに関わらせていただいたことは非常にありがたく思っております。

【第2部会長】

第2部会は、福祉・子育て・教育・暮らしというところを担当させていただきました。

その中で一番感じましたのが、職員の方たちが1年目、2年目となるにしたがって、こちらの質問に対する答えが非常に明晰になってくるという部分があるかと思うと、やはり相変わらず同じようなところもありました。この違いは何なのだろうかと実は感じていました。それは単に職員の資質の問題なのか、担当する分野の問題なのかは、残念ながら私の中でまだ解決はできていません。しかし、当初に比べると外部評価委員会自体は任期が長いということもあり、また、次の年にそこがきちんとなされているのを見ると、外部評価委員会があつてよかったなという感想を持ちました。

それと、補助事業について、それぞれの補助事業にはそれぞれの意味があって実施されているわけですが、公金を使うときはきちんと使途を明確にしなければいけないというあたりが、今までの補助事業は若干弱かったと思います。そのあたりを指摘できたことは一つの成果だと思っております。

さらに、他の自治体がさほど手をつけていないと思われる経常事業評価について、それも視野に入れて考えていくという姿勢は、新宿区のまさに一つの文化になっていくだろうと思います。

これから新しい委員会で検討していくと思いますが、職員意識の変化がまず大事で、それによって区民への行政に対する信頼というのが徐々にでき上がってきたのではないかなと思っております。そして、とても有意義な委員会に参加させていただきました。

ぜひこの評価の文化が定着していただければと思います。

【第3部会長】

第3部会の部会長ですけれども、私の思いは、今、提出しました報告書の初めに書いてありますので、ごく手短かに申します。

1つは、5年もやっているといろんな変化がありましたが、とりわけ川俣会長が亡くなられたことは非常に残念です。川俣会長は、責任感が強く、おれは無学だからとおっしゃりながらも非常に知性に満ちた方であったと思います。それから、江戸の粋を感じさせる方でした。本当に懐かしく思い出されます。

もう一つ、行政文化の中に評価を定着させるということが大事であり、また、説明責任をきちんと果たすことが大事だということは、区長及び外部評価委員の方々がおっしゃったとおりであります。私が特に思っているのは若い職員のことです。職員数が削減されていく中で、OJT（On the Job Training）などのさまざまな機会に資質を磨くということがなかなかできにくくなっており、他方、世の中の公務員に対する目が厳しく、いろいろなことを言われて自信を失ったりしがちであると思います。その中で、自分たちは公共のために一生懸命働いているという自信を持ちながら、実質的な能力を高めていくということを非常にしにくくなっていると思います。そういう、とりわけ若い公務員に、ぜひ評価という作業を通じて自信を回復して、公共のために働くという誇りを持ってほしいと強く感じております。

【会長】

それでは他の委員の皆様にも、一言ずつご感想などをお願いします。

【委員】

個人的に5年間もやったのに、若干じくじたる部分があるのはなぜだろうかと考え、その反省を込めて3つほど申し上げます。一つ目は人員不足ではないかということ。先生方を入れて委員は15人ですが、あれだけ膨大なことをやるには、人員不足だったのかなという気がします。もう少し委員を増やしたほうがいいのではないかなと思います。二つ目は皆さん非常に個人的には能力がある方なのですが、それゆえに忙し過ぎる人が多かったということで、忙しさの中で時間不足だった部分があり、十分協議できなかったのかなという気がします。

三つ目は、毎回指摘しているのですが、現場を見に行くときの作業です。みんなで集まる時間を調整することが難しく、現場視察不足だったと思います。皆さんと一緒に集まって見に行かなくても、1人で見に行ってもよかったのかなと思います。

【委員】

内部評価のとき、区民の意見を入れるということで出ていたのですが、意見が反映されないストレスがたまっていました。そんな中、区民会議でチェック機能ということでこの外部評価制度ができ、都合10年間関わらせていただきました。

その中で、当初は職員の方も文句を言われているというような感じを受けていられたのではないかと思います。ですが、苦勞して事業を実施している職員の方の応援団だという姿勢でいたら、職員の方がすごく変わってまいりました。やはりこういう外部評価で、区民が区民の目線で評価を出すということが、改善に役に立つのではないかなという気を持ちました。そのため、経常事業評価はとても大切だと思っております。ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございます。

まだ、発言したいという人はいると思いますけれども、区長は予定時間ですのでここで退席いたします。

【区長】

それでは、皆さん、本当に短時間の出席でご無礼を申し上げます。長期にわたる任期をお願いし、外部評価のしくみをつくり上げてくださった皆さんに心から敬意を表し、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。これからも、いろいろなところでお世話になりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。失礼いたします。

【会長】

これで議題の1が終わりました。議題の2に移ります。

内部評価と外部評価を踏まえた区の取り組みについての検証ということで、外部評価の報告がどのように受けとめられたかということについて、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

では、説明させていただきます。

お手元に「内部評価と外部評価を踏まえた区の取り組みについて」という冊子でお配りをさせていただいております。

今週月曜日に、議会・行財政改革特別委員会にこちらの冊子ができ上がりましたということをお報告させていただきました。

例年ですと大体1月から2月に報告するのですが、今回は議会の開催の関係で日程が合わず、今回のご報告という形になっております。

事業といたしましては、この冊子に外部評価を踏まえ予算に反映させた事業ということで事業名と予算額が載っております。ここには、計画事業として第二次実行計画に引き継がれてい

く事業を中心に載せてございます。改めて、経常事業については経常事業評価を行う中で明らかにしていくという形でございます。

行政評価が反映された事業としましては、全部で37事業です。ちなみに、平成22年度は52事業ございました。21年度が18事業、20年度は35事業です。

お手元の白い冊子が予算の概要書です。これが、今、開催されております第1回定例議会の予算特別委員会のほうにも提出されている内容です。

23ページをご覧いただきたいのですが、こちらに大きな2番として、「行政評価、決算分析に基づく重点的、効果的財源配分」ががございます。こちらの資料は財政課が作成したものでございます。

見ていただきますと、事業名と反映の内容ということで、これは主に第二次実行計画に向けて皆様からちょうだいした意見、これに対する区の考え方を今回述べさせていただきましたが、それに基づいて反映させた事業という形でまとめてございます。

今回は、素案をつくる段階で皆様からさまざまなご意見をちょうだいしました。その素案にいただいたご意見を、10月に行った区民討議会にもご提示させていただきました。その後、パブリックコメントをやりまして、区の総合判断をし、計画をつくったという流れでございます。

先ほどもご紹介しましたがけれども、19日の議会・行財政特別委員会からいただいたご意見とか質疑がございますので、披露させていただきたいと思います。

質疑「見直しをかける部分についてローリングをかけるわけですね。このローリングをかけたことによる変化がどうなのかというのが見えず、何とかならないか。」というご意見をちょうだいしました。それについては、「第二次実行計画の評価書を作成する際には、年度が変わることによって事業の中身が変化していく、その変化の状況を記載し、計画期間中であれば、事業がどう変わっていったかということがある程度わかるような仕組みを取り入れたい。」と答弁をさせていただいております。

それから、これは意見ということで言われたのがもう一つございまして、「外部評価委員の皆様は、時間もない中でやっていただいととても大変だったと思いますが、事務局及び区としては、その外部評価委員の方々にしっかり説明をして理解をしてもらった上で評価をしていたるように努力してほしい。特に経常事業評価が始まりますので、職員の負荷もかなり高くなってくることで、いわゆる評価のための評価にならないように、本来業務のほうもおろそかにならないようにバランスを考えて、評価の効果と実績の効果を両方上げるようにやってください。」というような意見がございました。

主な意見としてはそのようなところ です。

私のほうからご説明させていただくのは以上でございます。よろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございます。

それでは、きょう初めて具体的に、かつ実質的な意見を言うというのはなかなか難しいと思いますけれども、今の事務局の説明を聞きながらご感想、ご質問、ご意見をいただければと思

います

【委員】

今、区長からお話があったように、5年間を通じて、まず枠組みを作ってきたわけですが、前段で計画事業の評価というものを定着させるということでは、区の総合判断の報告書により区の受けとめ方もはっきりするし、我々としてはきちんと仕事をしたという満足感もあるわけですが、補助事業、経常事業のレベルになってくると、我々の方の詰めも甘い点もあると思います。それが実際どのように扱われたのかというあたりが、分かりにくい点があります。

我々がやったことが来年度以降にどのように築かれていくのか、分かりにくい部分はあるようにも感じておりますけれども、精いっぱいやったという満足感で卒業すればいいのかなとも思いますが、そのところは非常に微妙な気持ちです。

【事務局】

多分皆さんも同じかもしれませんが、外部評価委員会の評価がどう反映されているのか分かりづらいということが根本的にあるのかなという気はしています。

事務局でなぜそうなるのだろうと考えてみますと、評価はスパイラルで、時間軸が横に回るのではなくて斜めに回る。どこに反映されてくるのかがすぐに見えないのです。それをある時点、時点で捉えて評価書にどう表すかはすごく難しいことと認識しています。

外部評価としてご意見をいただき、区の総合判断として結果を出しました。その区の出した結果に基づいて、翌年度はどうしていくというところがもう少し明確に見えないと分かりづらいと思います。時間的・時期的な問題や職員の作業ボリュームもありますし、そういう部分も含めて、少しでもよいものにしていきたいという思いでおります。

【会長】

皆さんの正直な気持ちではないかなと思いますが、任期が満了しました後も委員の皆様は区民であり、新宿区に近いところにいらっしゃるわけですので、ぜひ見守っていただくということをお願いします。

他にございましょうか。

【委員】

私は、細街路について昔から言ってきました。うちの周りも含め新宿区は本当に細街路が多いところです。細街路の予算はいつも同じだったのですが、24年度予算案の概要の29ページ、101ページにありますように、今度は拡充予算をつけていただきました。今までは、こういうことを書いていただいたこともなかったのです。他事業との連携とか、助成金の見直しとか、こういうことが入ったのはよかったと思います。災害時に命にかかわることなのに、災害は災害の部署、道路は道路の部署で全然連携していただいていたことがなかった。そういう意味で協力と、各課の連携の視点というところが入らないといけないと思います。

【事務局】

「内部評価と外部評価結果を踏まえた区の実行計画について」で、57ページの計画事業53番「路上喫煙対策の推進」の「第二次実行計画の方向性に対する外部評価意見」に対する区の総

合判断のところですが、「事業効率化の観点から検討し、来年度から新宿駅東口において、試験的に路上喫煙対策と放置自転車対策を一元化して委託する予定です。今後、各担当部所で調整の上、効果、効率的な啓発活動を行っていきます。」このように、事業の組み立てが一部変わりました。

【委員】

それはずっと言ってきましたよね。

【委員】

平成24年度予算の概要の23ページから始まる「行政評価の反映」の行政評価という中には、私どもの外部評価委員会だけではなくて、さまざまな他の仕組みもあるのですか。

【事務局】

実態として、ここの中の反映内容と書かせていただいていますけれども、これは皆さんからいただいた第二次実行計画に向けた外部評価委員会の意見、これに対する反映内容ということで書かせていただいております。

【会長】

予算案の説明の中における外部評価という言葉はここということですね。

【事務局】

そのとおりです。基本的には全部載せられないので、要約させていただいたりしておりますが、その意見をまとめさせていただいているということです。

具体的には、財政課が予算編成をしていく中で、外部評価委員会の意見を要約した内容がここに提示され、この事業にその趣旨を反映させて載せるという流れになっております。

【委員】

毎年、数字に直結したこういう書き方が出てきたときに、私たちはここまで踏み込んで議論したのだろうかという思いがあります。この辺は、私たちの意見の反映というところで戸惑いがあるというのが率直な気持ちです。というのは、外部評価の意見を反映した上でこのような予算案を考えましたと言われたときに、私たちはその数字のところはあまり検討していなかったのではないかと思います。この委員会での意見を基に区のほうで考えていただいた数字だということはわかるのですが。

【事務局】

説明が欲しいという意味ですね。

【委員】

はい。ここところを、区民の方がどう受け取るのか。計画事業はそれでもまだある程度突っ込んで検討しているから、そう言われても十分納得感もありますが、経常事業とか補助事業になると、そこまで、我々自身が腹に落として結論を出したかなというあたりで、若干心配な部分があるというのが正直なところです。

【事務局】

行政評価の反映は、外部評価から言われたから反映したではありません。外部評価からい

ただいた意見に対して、区の総合判断を出しています。この総合判断に基づいた行政評価の反映ということでお出ししておりますので、外部評価のご意見だけをいただいた上での区の判断とお考えいただきたいと思います。

【会長】

我々は評価をやっている。10億円では不足だとまでは言えるけれども、20億円がいいとか50億円がいいとか、そこまでは我々は言えないと思います。そこはそういう点でも、我々の仕事はどういう帰結を持ったかであり、それほどクリアになるわけではないというところは、どうしても宿命的なことだと思います。

他によろしいでしょうか。

それでは、もし、お気づきの点がありましたら事務局に言っていただければ参考というか、財産になると思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、先ほど区長に、外部評価委員会の5年間の活動の総括をお渡ししましたけれども、これについて、ご意見・ご感想などありましたらお願いするというのが次の議題です。

【委員】

外部評価というシステムを取り上げているということは非常にいいことですが、先ほど申し上げましたように、我々のやったことで何が変わったのかとか、区民生活にどんな成果があったのかとかいう実感ができなかったもどかしさがありました。

それから、対象事業数に対して人数が少ないと思います。書類審査とヒアリングだけでは十分に理解できなかったという反省に対して、人数をもう少し増やしたほうがいいと思います。また、委員は他に役割があつて忙しい方が多かったので、これだけの事業の評価をこなせる時間的余裕がある人を選んだほうがいいと思います。

それと、現場視察に関しては、先ほど申し上げたように、個人でも行けるようにしたらいいのではないかということです。

それから、外部評価は批判ではなく協力であるので、もっと一体感を持って職員とやっていたら、ということが大きなことと思います。

最後に外部評価委員会卒業生の活用も考えたらどうですか。

【会長】

ありがとうございました。

どうぞ、これを皮切りに、それぞれ何かないですか。

【委員】

私は、法律的な知識や財政、予算などが全然わからない中で、ついていけるか最初は心配でした。

皆さんから教えていただいたり、学ばせていただいたりしながら区民として日ごろ感じていること、思っていることをその場その場で言わせていただきました。その中で本当に難しいと思ったのは、事業の中身を的確に評価できるような指標がないということです。例えば会議の回数で事業がうまくいっているかどうかは分からないと思います。そういう意味で、本当にこ

れでよかったのかなという思いがあります。

私たちが今までしてきたことがどういうふうに反映されるのかということについては、報告書をじっくり読ませていただいて考えたいと思います。今回で外部評価委員会は任期満了ですが、今後、委員会の動きは注目していきたいと思います。

【委員】

この報告書の前書きに書いてあった「評価の文化」について、いいことを言ってくださったと思っており、私もそういう評価の文化の発展であり定着ということができれば素晴らしいと、全く同感の思いであります。

その関連で私が申し上げたいことは、我々は外部評価委員として評価をしたわけですが、評価の仕組みとして大事なのは、評価を活かすということがどこまできちんとできているかということではないかということです。

外部評価も、パブリックコメントなども評価ですけども、ともするとガス抜きと思われがちですが、やはりそれをどう活かすかということが大事だと思います。

私は、この5年間を通じて、我々の評価が現場に返っているということに対して、疑問を持っています。いろんな見方、言い方があって当然ですけども、私は現場に返すのではなく、経営者に返すという思いを持っています。法律や条例に基づいて、それに忠実にやっているのが現場ですから、評価の意見というものに対しては、ともすると、事業をよく理解していない者がこんな意見を言っているのかみたいなことを感じるかもしれません。評価する側もそんなに確信を持って言っているものばかりでない部分も時にはある。だから、私は評価の重みを非常に強く感じ、あるときはこんなことを言っているのだろうかと思ったこともありました。ですから、行政は区民がこのような思いで評価していることも理解していただいて、そういう第三者の評価をどう行政に活かすか、もっと工夫をしてもらいたいというのが、私の卒業に当たっての希望です。

もう一つ、評価ということについて言えば、評価はいろんな立場でいろんな人の評価があっただけいいのではないかと思います。そういう意味で、今後は地域の活動の中でそういう多様な評価、多様な声の1つとして、また発信できればと思っています。

【委員】

評価をしてそれが反映されることは、ものすごく時間がかかることであると思っています。スピード感は非常に重要ですが、言い続けることや評価し続けることも重要だと思うのです。

今日の報告書等を見まして、時間軸でどういう意見がどんなふうに反映されたかみたいなものがいずれ出てくるといいと思いました。ですので、これを形骸化させないためにも、そういう作業が今後必要であると思いました。

【委員】

阪神淡路大震災から17年ぐらい経過し、私はこれまで講義会や、講師を招いての勉強会、あるいは防災士の試験を受ける勉強という形でいろいろやってきましたが、去年の大災害においては、今まで勉強していたのは何だったのだろうという気がしております。新宿は、いろいろ

な面で先端を行っていると思いますし、現在の置かれている行政のあり方をいろいろと相談し、話し合いながら進めてきたつもりでおりますが、防災にはこれでいいというものがない。必ず想定外のことが出てきてしまう。そういうこともありますので、いずれにしても身を引き締める思いで常にあります。皆さんに話をして、皆さんに緊張を持って、いざというときに対応できる体制をいつもとってもらうような、取れるような思いを伝えていくということが重要です。

外部評価委員会で勉強させてもらったことを1つの糧として、これからも皆さんにいろいろおつき合いしたいなと思っております。

【会長】

この忙しい中で、去年の大震災のことを忘れがちですが、あの震災は非常に大きな事件で、震災以降それまでと同じことをやっていいのかとずっと自問してきました。外部評価も、震災以降同じようなことをやっていいのかなと、ずっと気になっており、反省を迫るような事件だったと思います。ならばそれをどう受けとめていくかということについては、何も答えがないのですが、やはりいつまでも忘れてはいけません。忘れないということは、結局ずっと緊張しているということです。私も時々思い出しては、身をひきしめています。

【委員】

5年間で感じたことというのは、皆さんが大体述べてくださいました。そういったいろいろな問題点はあるものの、個人的な感想としましては、新宿区に住んでいてよかったし、これからもずっと新宿区に住み、最後まで一生住みたいという気持ちをさらに強く持ちました。

外部評価委員に選ばれた方は、皆さん地域に根づいた活動を長くしていらっしゃるし、区のことをとても真剣に考えていらっしゃる先輩方で、そういった方々が地域で活動していただくということは、非常に頼もしく、力強く思いました。また、職員の方々も、問題点はきちんと把握していらっしゃる、それに対して改善しなくてはならないという認識を持っていらっしゃる。区民の声を聞く耳も持っていらっしゃる、区民としては、職員の方々に対して非常に満足を感じております。

課題はまだありますが、経常事業にまで踏み込んで、さらに活動を広げていくという方針、未来への方向性は、これ以上考えられないくらい非常によく考えられた方向で、私自身としては将来性のあるものではないかと考えております。来期もきっと外部評価委員の新しい方々がしっかり運営していただくと思います。これからも新宿区民として新宿に暮らしていきたい思いで、さらにより新宿の町になっていくのではないかとこの楽観的な気持ちを持っております。

【会長】

言い方はさまざまでしたが、こうしてみると、総じて次期の外部評価委員会を外部評価してやるぞというような、そのような気持ちで、新宿区に対して特別の思いで言っていると思います。外部評価委員会の活動につきましても今後ともご支援、ご鞭撻、あるいはご指導を賜れるということだったかと思いますが、事務局もぜひ心していただいて、来年度以降もいい仕事をしていただきたいと思います。

というわけで、その他の1番目の議題はよろしいでしょうか。

【委員】

今のお話を聞いて思ったのは、この後私たち自身が次回のメンバーの方に引き継ぐという場面はあるのでしょうか。また、それは、私たちが検討した結果を次回のメンバーの方が読み込んだ上でスタートしてくださるといようなイメージなののでしょうか。

【会長】

例えば、事務局が個別に説明に伺うといった機会があるのか、それとも会議体の中で説明して、あとは自分で勉強してもらうといったことなど、事務局から何かお考えがあればどうぞ。

【事務局】

確実なスケジュールは、今の段階ではまだ出てきていません。ただ、この1年間、私は皆さまにすごく助けられたと思うのは、過去の蓄積をお持ちになっていらっしゃるところで一緒に作業させていただいたということです。ですが、4月以降は、一から作業を初めていただくことになるわけですので、今までと同じことは到底できません。まずは事業をしっかり理解していただけるように説明しなければいけないと思います。

それから、評価の手法については、原則的には、内部評価したものを外部評価し、外部評価委員会として統一した意見として出していただく必要があります。個人の意見の羅列では委員会としての意義が弱くなってしまいますので、そういう努力を私どもも含めてしっかりしていかなければいけないと認識しています。マニュアル的なものは今のところつくっていませんので、今後、部会長、会長を初め、私どもも当然お話しはしてまいりますけれども、まず、今までのやり方をご説明しながら、少しずつ進めていこうと思っています。

【会長】

皆さんによって築き上げられた蓄積を基盤として始められるような体制を整えていくことになると思います。

では、正式な委員会としてはこれが最後となります。本当に長かったのですが、皆さんと一緒に仕事できて本当によかったと思います。どうもありがとうございました。

では、これで閉会いたします。ご苦労さまです。

<閉会>